

中国・内モンゴル近代史の語り—対日協力と対日抵抗の間で—

田中 剛

はじめに

- ・ 日中戦争期の内モンゴル
 - 「満洲国」建国（1932）、内蒙古自治運動（1933）、蒙古聯盟自治政府（「蒙疆政権」）成立（1937）
 - 内モンゴルは大きく 3 つに分けられる（「満洲国」、「蒙疆政権」、国民政府地域（オールドス））に分断
- ・ 中国共産党は 1947 年に内蒙古自治政府を樹立し、「内モンゴル」を統合
- ・ 日中戦争期の対日協力と対日抵抗の間で、内モンゴルのモンゴル人たちは民族的アイデンティティをどのように形成してきたのか
- ・ 民族の集合的記憶から漏れ落ちている個人のトラウマとは

1. 日本における研究

- ・ 傀儡政権研究から対日協力政権研究へ
 - 汪精衛政権に対して「一定の自立性」を認める共通理解
- ・ 内モンゴルの「蒙疆政権」についても、モンゴル人の自立性を認める

2. 成吉思汗廟（内モンゴ自治区ウランホト）の語られ方

- ・ 中華人民共和国は、2006 年に「全国重点文物保护单位」に指定
 - 創建は「満洲国」時期
 - 中国共産党は 1947 年、同地で内蒙古自治政府の成立式典を開催
- ・ 白拉都格其ほか編『蒙古民族通史』（内蒙古大学出版社、2002 年）
 - 「満洲国」皇帝溥儀が「天照大神」を国神として奉祀し、東北各地で次々と「建国神社」が創建された当時にあつて、成吉思汗廟の創建は日本の文化侵略と精神麻酔に対するモンゴル族人民の抵抗であつた。
- ・ 満洲国史編纂刊行会『満洲国史・各論』（満蒙同胞援護会、1971 年）
 - 蒙民厚生会のきも入りと満洲国内蒙古人の総意により 1944 年 10 月興安（もと王爺廟）の台地に壮麗な成吉思汗廟を建立した……爾来、国内蒙古人はもとより蒙疆の徳王はじめ国内外の参詣が年々増加し、ラマ教の振興に貢献した。

3. 日中戦争期のチンギス・ハーン崇拜

- (1) 内モンゴル伊克昭盟（オールドス）の八白宫

- ・ オルドスにあるチンギス・ハーンの祭殿、チンギスの鞍や弓矢など祀る
- ・ 春夏秋冬それぞれに行われる大祭のうち、旧暦 3 月 21 日の春季大祭が最も盛大
- (2) 北平蒙蔵学校の「チンギス・ハーン記念大会」
 - ・ 北平（北京）のモンゴル人学生が 1930 年 4 月 19 日（旧暦 3 月 21 日）に開催
 - ・ 「チンギス・ハーン」の精神」を学び、民族アイデンティティの涵養を重視
- (3) 内モンゴ自治運動
 - ・ 徳王らモンゴル王公は中華民国国民政府に対して「高度自治」を要求（1933.7）
 - ・ 肖像画や祭祀、記念大会などチンギス・ハーンをシンボルに
- (4) 日本占領地域のチンギス・ハーン崇拝
 - ・ 徳王が主席の「蒙疆政権」は、チンギス・ハーン紀元を採用、記念日を設定
 - ・ 「満洲国」は 1942 年に成吉思汗廟の造営開始、1944 年完成
- (5) 国民政府と中国共産党のチンギス・ハーン崇拝
 - ・ オルドスの八白宮を国民政府は甘肅省に移送（1940.6）
 - ・ 移送後に八白宮の祭祀を行なったのは蒋介石の代理
 - ・ 八白宮の甘肅移送の途上、中国共産党が統治する延安を通過
 - ・ 共産党は延安に「チンギス・ハーン記念堂」を建立、記念会を開催

4. 台湾のモンゴル人

- (1) 海を渡るモンゴル人
 - ・ 中国共産党に敗れた中華民国政府は台湾に撤退（1949）
 - ・ 社会的背景の異なるモンゴル人 400 人以上が台湾へ渡る
- (2) 台湾の成吉思汗大祭
 - ・ 1951 年 4 月 26 日（旧暦 3 月 21 日）に台北師範学院で成吉思汗大祭を開催
 - ・ 以来、政府公式の祭祀として現在まで続く

むすびにかえて

- ・ 戦時中に各勢力が競い合ったチンギス・ハーン崇拝は、戦争の記憶を乗り越えて戦後にモンゴル人を統合するシンボルと成り得た
- ・ しかし、モンゴル人の集合的記憶とは別に、取り残されたままの個人のトラウマ
- ・ 日本・台湾在住のモンゴル人に対する聞き取り
 - 沈黙（家族に対する罪悪感など）
- ・ 語らぬこと、語り得ないことに対して、実証史学はどのように向き合うことができるのか